

山台 2023 まちづくり 若者ラボ

活動報告



03

「仙台まちづくり若者ラボ」について
事務局・メンター紹介

04

活動の流れ・ワークショップ
アクション報告会

06

チーム紹介/アクション報告会プレゼンダイジェスト

チームA チーム名「FEELせんだい」※

チームB チーム名「E仙台」

チームC チーム名「防災ストーリーズ」

チームD チーム名「仙台モーニングルーティン」

チームE チーム名「DiverCity SENDAI」

チームF チーム名「チームイノベーション」

About

「仙台まちづくり若者ラボ」について



『“やってみたい”をやってみる半年間』

仙台市では令和2年度から、若者の自由な発想を仙台の活力創出につなげるため、まちの課題をワクワクに変える「仙台まちづくり若者ラボ」を実施しています。

この事業は、若者自らが「自分ごと」として関われるまちづくりに関するテーマを設定し、ワークショップとフィールドワークといった実践型プログラムを通じて、

そのプロセスや成果を発信するとともに、まちづくり活動の担い手となる若者の発掘・育成を目指すものです。

若い世代の参加者が6つのチームに分かれて、「まちの特派員」として自らの視点で取材活動を行いました。

各チームには参加者と同年代のメンター（指導・相談役）を配置し、プロジェクトの進捗管理やフィールドワークの伴走支援、他団体との連携支援などフォロー全般を行い、活動をサポートしました。

事務局・メンター紹介



イベント企画・運営担当者
(株)JTB仙台支店 地域交流グループ

野村 倫太郎さん



イベント企画・ファシリテーター
(一社)ONE TOHOKU HUB

伊藤 愛発さん



メンター

三品 政人さん



メンター

小野 拓也さん



メンター

井上 和正さん



メンター

原田 紗歩さん



メンター

伊藤 小百合さん



メンター

神尾 真大郎さん



活動の流れ・ワークショップ

今年度は第3回ワークショップの後に、各グループがやってみたいことを具体化して実際にやってみる“アクション期間”を設け、全4回のグループワークを行いました。

Part
01

ワークショップ

7月1日

- ・仙台まちづくり若者ラボの概要説明
- ・奥口文結氏による講義
- ・グループワーク

フィールドワーク

Part
02

ワークショップ

8月4日

- ・アクションプラン作成
- ・グループワーク



フィールドワーク

Part
03

ワークショップ

9月15日

- ・仙台市の部署の取組等紹介（財政課、政策企画課）
- ・アクションプラン発表

アクション期間

Action
Report
Meeting

アクション報告会

12月1日

- ・各チームアクション報告



アクション期間

Part
04

ワークショップ

1月12日

- ・アクション報告会を終えて
- ・グループワーク



フィールドワーク



アクション報告会

令和5年12月1日、仙台市市民活動サポートセンターで開催しました。

今年度は41名の参加者が、それぞれが掲げたテーマに沿って、まちの未来を「自分ごと」に引き寄せ、約5か月間の議論を重ね、実際のアクションに移してきました。アクション報告会では、これまでのアクションの紹介、アクションを通じて得られた経験やアイデア、今後取り組んでいきたいアクションについて、一般観覧者及び市長や仙台市職員等関係者の前で発表しました。

その活動の様子を、本誌及び仙台市公式動画チャンネル「せんだいTube」で紹介いたします。「自分ごと」として関わる、新しいまちづくりの形をぜひご覧ください。

アクション報告会
各ワークショップの動画を
「せんだいTube」で
絶賛公開中！



YouTube

01 Team A(環境)

FEELせんだい

【テーマ：山・海・街にふれに行く】

Mentor 三品政人

Member 稲吉啓/大谷遼河/梶原ダリア/鈴木里音/堀越義人/荒田考太郎



Action

環境に関する様々な活動、インタビューをまとめたフリーペーパー制作

活動の様子

01



仙台にある多様な環境に
直接触れに行くことにしました

02



深沼ビーチクリーンに参加し
ゴミへの意識が高まりました

03



ありのままの自然に触れ
充実した時間を仲間達と過ごしました

。 アクション報告会・プレゼンダイジェスト 。

第1回のフィールドワークでは海の世界を知るために荒浜地区の深沼海岸で行われている深沼ビーチクリーンに参加しました。ビーチクリーンの主催者である方にインタビューも行い、他人事に感じられていたゴミ問題を身近に感じ、自分の周りのゴミにも意識するきっかけになりました。

第2回のフィールドワークでは街の中で自然を感じることのできる環境ということで定禅寺通に着目し、定禅寺通エリアマネジメントの方にお話を伺いました。定禅寺通の課題や将来像についてインタビューし、実際に定禅寺通を歩き、その心地よさというものを体験することで身近な自然を守ることへの意識が高まりました。

また、秋保の自然環境を幅広く捉え、飲食店や秋保大滝、磊々峡などの景勝地を訪れて自然を感じるアクションを行いました。自然の中で、自分たちでコーヒー豆を焙煎してコーヒーを淹れ、豊かな時間を楽しむことができました。川沿いの利用者の方へ“あなたにとっての環境”についてインタビューを行いました。人の手の入っていないありのままの自然というのが環境だとお答えいただき、そんな場所で自分の時間を過ごすことがその方にとって重要であり、もっとそういう場所が増えていくと嬉しいという意見を頂きました。

他にも脱炭素まちづくりカレッジでファシリテーターをされている方にお話を伺い、まちづくりカレッジのことやカーボンニュートラルのこと、現状の課題は何があるのかということについて、Instagramで発信をすることができました。

これまでのアクションを継続しつつ、最終的に今までの活動とそこから得た気づきなどを踏まえ、フリーペーパーを発行したいと思っています。みんなで捉えた“多様な環境”を、より多くの人に伝えるように整理し、冊子としてまとめていきます。

仙台市市民局 局長 天野 元のコメント

皆さんの活動を見ていると、環境という大きなワードを、自分ごとの話によく落とし込まれているのが非常に良いことだと思いました。これから出るフリーペーパーも楽しい環境というものを身近に感じられるものになると思うので、大いに期待しています。



02 Team B(教育)

E仙台

【テーマ：生涯教育とまちの魅力】

Mentor 小野拓也

Member 及川紗知/玉川怜奈/村山華蓮/岡本啓/菊地七虹/高村都夢



Action

「教育×芸術×自然」をテーマに、公園での市民参加型アート制作

活動の様子

01



はじめに教育のイメージを出し合い
多方面から教育について考えました

02



実際に現場を訪れ
生涯学習と探究学習について学びました

03



イベントに参加したことで
交流が教育に繋がるという発見が

。 アクション報告会・プレゼンダイジェスト 。

はじめに、メンバーそれぞれの教育のイメージを出し合うと教育を多方面から見たものが多く、更に話し合いを行い、全体の方向性を考えました。年齢を問わず全ての人にフォーカスした学びということから生涯学習と、自分ごととして考えられる仙台ならではのまちづくりとして、まちの魅力を探していくという方向性に決まりました。

第1・2回のフィールドワークでは仙台市生涯学習支援センターと生涯学習課の方やまちづくりスポット仙台の方にお話を聞きました。生涯学習と探究学習の違いについてお聞きしたところ、生涯学習は生きている間常にその中でも長い間の時系列での学びであることに対して、探究学習というものはその学習者がどのようなスタイルで学んだかを重要視しているということで、それぞれ特徴を持って違うということをお聞きしました。また、まちづくりスポット仙台の方からは、生涯学習では人との交流が大切だということを学びました。

これらのフィールドワークを通して、まずはどのような仙台でありたいかをチームで明確にし、仙台を活かした生涯学習として、市全域の緑地率が高いことから、公園の緑を活かした方向性に進めました。公園・アート・教育という観点から、大町西公園で開催されるイベントに参加し、持ち歩いているボードにイベント参加者などから公園内の写真を頂き、ボードに貼り付ける参加型のアートにしていきました。約80枚の写真を集め、その中で様々な人とコミュニケーションが生まれました。そこで公園の価値について再発見しました。そこから交流を生み出す方法や公園の楽しみ方を様々な人に知ってもらうためにはどうすればいいかなどを考えました。

私達は交流が教育に繋がるということを発見しました。既存の教育をより良くさせるためにフィードバックに根拠を持たせた議論を進められたらいいなと思いました。

FOLK GLOCALWORKS 主宰 奥口 文結氏のコメント

教育＝コミュニケーションなんじゃないかということがフィールドワークを通して分かったという点もすごくいい気づきだと思います。あとは教育を受ける側の視点をもう少し想定してヒアリングしたり学ぶ人側の視点を持って企画を展開していくと、持続可能性が見えてくるのかなと思いました。



03 Team C (防災)

防災ストーリーズ

【テーマ：防災を楽しく学ぼう!!】

Mentor 井上和正

Member 大和田静 / 木戸友梨菜 / 工藤佑羽 / 齋藤亮太 / 関町咲穂 / 門間由芽奈 / 武見理々華



Action

「楽しみながら学べる、防災カードゲーム」制作

活動の様子

01



防災対策が考案されているが一般に
広がっていないことが課題だと知りました

02



みんなが知ってるトランプをベースに
ゲーム形式で楽しめるカードゲームを考案

03



若者ラボの枠を越えていき
子供にも親しみやすい防災訓練を！

。 アクション報告会・プレゼンダイジェスト 。

第1回のフィールドワークでは防災とは何かを具体的に知ろうという目的があったので、第一線で活躍している東北工業大学の方にインタビューを行いました。その結果、様々な防災対策が考案されているがそれが一般に広がっていないことなどが課題であり、その防災情報に興味を持ってもらう必要があると認識を持ちました。

第2回のフィールドワークでは宮城教育大学の方から学校における防災教育が形骸化していることも伺い、防災に関するゲーム作りが民間の防災対策の導入として適切ではないかと考えました。また、仙台市減災推進課の方へのヒアリングから東日本大震災を経験していない世代が増加し防災意識というものを全市民に浸透させることに課題がある現状などから、遊びを通して防災を学べるゲームを作り、日々の防災意識をアップデートしていきたいと考えました。

その後、実際に国土交通省が出している防災カードゲームを体験してみて、私達がゲーム作りに生かせることがないかを考えました。七並べのような形式で、津波の時の対応や情報をイラストで知るきっかけとなったり、ゲーム形式でやることで楽しみながら防災を知ることができました。一方で、新しくルールを覚える必要があるため、市民への導入のハードルになっていないかという点も考えました。

以上のフィールドワークの結果、防災について楽しく学べて、防災に興味を持ってもらえるようなカードゲームを考案しました。みんながルールを知っているトランプをベースにすることで、誰でも遊びやすいものにイラストや図を用いて、子供でも親しみやすいものにしました。

仙台防災未来フォーラム2024の出席も決定し、仲間の募集もしています。みんなで作り上げたカードゲームへの応援を、今後ともよろしくお願いいたします！

仙台市長 郡 和子のコメント

このトランプを作成するのに、相当数の時間をかけたんだろうなというふうに思いましたが、一枚一枚のカードの出来がすごくいいですね。本当にとてもよく考えられていて、防災というものをトランプしながら学ぶことができるというとてもいい着眼点でした。



04 Team D (健康)

仙台モーニングルーティン

【テーマ：①健康寿命を伸ばす
②仙台モーニングルーティンをつくる】

Mentor 原田紗歩

Member 阿部弥琴 / 出雲海星 / 千葉美音 / 橋本信孝 / 大友希美



Action

朝食や散歩など健康的な朝活文化を作っていく活動

活動の様子

01



楽しく続けられる健康を目指し
チームのみんなで意見を出し合いました

02



第1回のフィールドワークでは
おむすび東雲さんでみんなで朝食を

03



まずは朝活の魅力に気づいていない人へ
発信を繰り返すことで認知してもらう

アクション報告会・プレゼンダイジェスト

身体・健康・食事・睡眠・運動と、心の健康と人との繋がりと、というところで、病気ではない状態を作るという健康だけではなく、楽しくより良く過ごそうという健康を目指して、そのために楽しく続けようというところに主眼を置きました。

そこで設定したテーマは、「健康寿命を伸ばす」と「仙台モーニングルーティンをつくる」です。第1回・2回のフィールドワークでは、実際におむすび東雲さんで朝ごはんを食べたり、勾当台公園で、最近話題の朝ピクをしました。一日が早く始まることで、休日の一日がとても長く感じたり、共通の感想としてはとても有意義な休日になったという感想が出ました。

第3回・4回のフィールドワークでは、食べ歩きを通して外部の人とも朝活を楽しんだり、原点に戻ってこれまでを振り返ったりしたことで、朝に集まることによって1日元気に過ごせることや、朝ごはんを食べることによって活動が楽しくできたことは小さなステップ故に、継続性があることがわかりました。

以前は、朝活に対してネガティブなイメージを持っていましたが、4回のフィールドワークを通して心にも体にも良い効果を与え、さらには一日を有意義に過ごせるということで、結果的に朝活で生活の質が向上することを身をもって実感することができました。そして、その魅力をもっと仙台全体に広めたいという思いが生まれました。

しかし、朝活の魅力に気づいていない人が多いのが実態です。そこで5つのステップを通して課題解決を目指していきます。まず、SNSでの投稿で私たちが認知してもらうことからスタートし、朝活の有益な情報を発信して興味を持ってもらい、実際に朝活をやってみたいという欲求に繋げていきます。そして、SNSの発信を繰り返すことで、記憶として残るように印象づけ、最終的には実際に朝活への参加を促す、という流れを目指していきます。

FOLK GLOCALWORKS 主宰 奥口 文結氏のコメント

すごくシンプルですけど、ブレのない企画でとても共感しながら聞かせていただきました。朝活をしたことがない人にどう訴求していくかが今後の課題。朝活に参加して楽しかったと思ってもらえるような遊びやノリを取り入れると、個性のある朝活になると思います。その時は私もぜひ参加したいです！



05 Team E (多様性)

Diver City SENDAI

【テーマ：そもそも多様性とは何かを考える】

Mentor 伊藤小百合

Member 菅野日菜子 / 木村洋達 / 鈴木美咲 / 外下和奈 / 吉田若葉 / 佐藤亜海



Action

SNSを活用して仙台の多様な“人”の魅力の発見と発信

活動の様子

01



そもそも多様性とは何かを
具体的に知らないという気づきがありました

02



街などでのインタビューから
一人一人の個性を知りました

03



人をラベリングせずに
一人一人と向き合っていこう

アクション報告会・プレゼンダイジェスト

第1回のワークショップでは、そもそも多様性とは何かを知らないということに気がつき、まずは多様性とは何かを考えるというテーマでアクションを行うことになりました。

まず、私たちが多様性をテーマにする上でぱっと思い浮かんだ言葉が「LGBTQ」と「国際」の2つ。

そこで主に外国人の方を迎え入れているゲストハウス「KIKO」を運営されている方とLGBTQに関する様々な活動をされている方、海外から仙台に移住してきた方にお話を伺いました。

私たちは彼らが多様性という面で困っているのではないかと前にお話を聞いたのですが、皆さん共通して仙台に住んでいて困った思いをしたことはなく、逆に周りの方に気を使われすぎて戸惑う時もあるくらいだと知りました。

そこで私たちは無意識に多様性という言葉を使って、人にラベリングをしてしまっていたのではないかと気づきました。

一人一人の人と向き合おうと思い、仙台駅周辺で歩いている人たちに自分を表す5つのことを聞くというアクションとして行い、アウトプットとしてInstagramを通じてその仙台の多様な人を発信するという活動を行いました。それぞれの人が共通している後ろ姿を掲載し、それと共にその人の個性の部分を発信していきました。

この半年間で、たくさんの人に出会って自分の固定観念をなくして人と関わることができました。また、ラベリングをせずに向き合うということを知りました。何か見た目や年齢で判断したり、外国人だから英語を話すなど活動前は固定観念で決めていましたが、出会いがたくさんあったからこそ、人をラベリングせずに一人一人として向き合うことがとても大切だと思いました。

Instagramの投稿はまだ終わっていないので、これからも続行していきたいと思っています。

仙台市市民局 局長 天野 元のコメント

多様性の観点を持つことで、自分の人生が豊かになったり世界が豊かに見えたりするのだと思いますが、実体験としてはなかなかできないものなのだと思います。今回の写真撮影などのアクションを通じて多様性を実感できるということは、素晴らしいことだと思います。



06 Team F (イノベーション)

チーム イノベーション

【テーマ：イノベーションとは何か】

Mentor 神尾真太郎

Member 渥美伍祿 / 小野文歌 / 今野伸二 / 鳥村和宏 / 成澤智哉 / 大友美聖 / 田中佑芽



Action

家庭のロス予備軍食材×宮城の食材によるサルベージパーティーの開催と、リーフレットの作成・子ども食堂への配布

活動の様子

01



イノベーションという大きなテーマを具体的な方向にまとめていく

02



街に繰り出してイノベーションを起こせる舞台を探索

03



サルベージパーティーを実施！次は必要とする場にこの情報を届けたい

アクション報告会・プレゼンダイジェスト

私達はイノベーションのテーマを、異なるフィールドでの考え方や仕組みを取り入れて新たな価値を生み出すものという風に定義することにしました。若者目線で捉えた課題や問題点を集約し普段スポットが意外と当たりにくい場所でイノベーションを起こそうということで舞台を設定しました。

まず向かったのはいろは横丁。予めいろは横丁が抱える課題を想定していましたが、すでに明確な課題意識とその対策を実践していることが分かりました。実際にいろは横丁が意識していた課題はややスケールの大きい問題が多く、我々が自分ごととしてアクションを起こすのは困難だと考えました。

視野を広げて“食”に着目し、フードロスを新たなテーマに掲げました。大崎市の道の駅に向かいましたが、道の駅は売れ残りがあれば生産者自らが商品を持ち帰るため、フードロスという課題に直面することがないのではないかと気づきました。

その後、フードバンク仙台にお話を伺うと、フードバンクは貧困とフードロスの2つの課題解決のための橋渡しとしての存在であることも分かり、圃場廃棄物の活用と貧困問題という新たな課題が見えてきました。そこで、これまでのフィールドワークを行ってキーワードとなっていた“食”で、貧困問題の解決に取り組む子ども食堂へのアプローチを考えました。しかし、実際には農家の方から規格外の野菜をもらうことや、限られた時間の中で子ども食堂の方々と協働させていただくのが困難であり結果としてまた別の方向性を取るようになりました。そんな中、地産地消とフードロス、孤食の3つの課題を解決する方法としてサルベージパーティーという食のイベントを実施することがこの課題の解決を通してイノベーションを実現できる方法なんじゃないかなという結論に辿り着きました。

今回は内々だけでの実施になってしまいましたが、設定した課題意識に対して必要とする場にその情報を届けることが求められていると感じています。

仙台市長 郡 和子のコメント

イノベーションってすごく難しいんですよ。当初の想定していたところと違ったという感じが得られたことも大切だったと思います。時間がかかるのが普通だろうと思った上で取り組むことが必要です。これから先、きっと素晴らしいアイデアが導き出されることを期待したいと思います。





YouTube



Instagram



Facebook



X(旧Twitter)

仙台まちづくり若者ラボの活動やアクション報告会の様子はYouTubeで、
その他新しい情報などは各種SNSで配信中です♪

仙台まちづくり若者ラボ参加者のみなさんからの声

若者ラボ参加者の感想

- まちづくりを文字面だけでなく実際に体験できたのが良かった。(社会人)
- 自分一人ではやれなかった活動を行えた、また活動を行う勇気がもらえた。(学生)
- 自分が楽しく続けられる、興味があることをベースに街をよくするアクションを起こすことができるのが新しい気づきだった。(社会人)
- 学生から社会人の方々までたくさんの方と意見や情報を共有でき、新たな考えや視点を知ることができました。そのため、視野が広がり活発に活動でき、参加して良かったと思います。(学生)
- まちづくりに取り組むハードルが低くなり、自分ごととして捉えられるようになった。(学生)
- まちづくりは大掛かりなものだというイメージがありましたが、大掛かりでなくても、町について考えることそのものがまちづくりなのだと感じました。(学生)
- 自分が楽しく続けられる、興味があることをベースに街をよくするアクションを起こすことができるのが新しい気づきだった。(社会人)

若者ラボ参加者から若者の皆さんへ

- 仙台が好きになり、人として成長できる場があります!(社会人)
- まちづくりの過程で、自分の知らない世界が次々に見つかります!
それも醍醐味でとても楽しいのでぜひ参加してみてください!(学生)
- こうしたい、モヤモヤを形にできるいい機会なので、迷わず参加してほしいです!(学生)
- 日常の家庭、仕事とはまた違った側面の交流ができます。
誇張ではなく、月一回を半年参加しただけでも家庭や仕事で人やモノへのアプローチの仕方(意識)が変わり、なんとなく活き活きとした気がします。(社会人)
- 仙台でなんとなく過ごしている、他の地域と比較することがあるという人は、
若者ラボに参加することで、仙台を自分でおもしろくできる感覚を得られます!(社会人)
- 仙台市のイメージが変わります!!(学生)